



進まなん

学校
だ
よ
り

新発田市立七葉中学校

新発田市上館乙84番2

電話 0254-22-3524

令和2年12月7日 第20号

大きな行事を含む様々な活動が、一つ一つ終わり、新しい年が近づいてきました。私たちは、多くの活動によって、8月から成長したはずです。新しい年を迎えるこの時に、さらに、できることがあるはずです。このことについて、みんなで考えました。

12月 全校朝会 校長講話

校長 野澤 一吉

「春に向けて、高い所から眺め、ささいなことを始める」

日本は、冬に向かいます。冬の次は、新しい世界が始まる春が来ます。学校の活動が、一つずつ終わっています。私たちは、春までの間、きっと、しなければならないことがあるはずです。それをみんなで考えたい。

まず、2つの国を紹介します。その国のみなさんと同じ世代の様子を特に見てみます。最初は、ALTの佐久間アキ先生出身のフィリピンです。



小学生と中学生の様子です。みなさんのように感染症対策をしながら学習をしています。全ての学校が、施設が整備されているとは限らなく、使う用具を修理したり、外で学習したりする時もあります。自分が使う物は、責任もって管理しています。体育的な行事(右の写真)もあり、団結や協力をする力を身に付ける学習もあります。



次は、私が、4年前に、アメリカ合衆国イリノイ州の学校を訪問した様子を紹介します。子どもたちは、授業ごとに教科書を持って、教室を毎時間移動していました。授業



に参加したかどうかは、カードで記録されていました。どんな行動をしたのかは、全て自己責任でした。いろいろな国から来た子どもがたくさんいるためか、学び合う体制が整備されていて、情報機器も頻繁に活用されていました。

皆さんを含めて、世界の多くの中学生は、今現在、目標に向かって学習したり活動しています。このように、どんな環境でも、私たちの周りには、努力している仲間がたくさんいます。

私たちは、新発田市が、そして日本が、社会の全てであるとは考えてはいない。みなさんは、小学校までの友人が全ての友人ではなかったように、これから、多くの友人と出会うはず。春になれば、誰もが次のステージに行きます。次のステージでの自分の姿は想像できないかもしれない。しかし、今できることは、この1年間で何ができるようになったのかはしっかりと自覚して、自分に自信をもちたい。きっと、小学生とは違う姿、昨年までとは違う姿に気付くはず。そして、自分に自信をもって、高い所から見て少し大きな自分を想像したい。今は、その姿に向かって、大きな行事はないですが、身近なささいなことを実践してほしい。